

平成29年11月30日



日立理科クラブ

No. 112

日立理科クラブ通信

第17回 青少年のための科学の祭典 日立大会

今年で17回を迎えた「科学の祭典」が、11月26日(日)、日立シビックセンターで開催されました。日立理科クラブの出展ブースを中心に活動内容を紹介します。マーブルホール・新都市広場・ギャラリー・科学館と4会場で52のブースと特別講演が盛会に繰り広げられ、3033名の来場者がありました。ギャラリーでは、「科学の楽しさ一日体験」というタイトルで、日立理科クラブ「理数アカデミー」の活動内容が一目でわかる展示になっています。また、自由研究コーナーでは、理数アカデミー・小学6年から中学3年までの8名の受講生が取り組んだ研究内容が展示され、来場者が熱心に見ていました。



《平成29年度の研究テーマ》

- ・バラバラを科学する
- ・3Dプリンターでジオラマ模型を作ってみよう
- ・植物工場を我が家に造ってみよう
- ・再生可能エネを使ってみよう!
- ・光電話器を作ろう!
- ・折り紙を使った建物の研究

新都市広場では、「ソーラーカーの試乗」が、小さな子どもたちの人気で、順番待ちにたくさん並んでいました。日立理科クラブ・中里小の「理科室のおじさん」担当の手作りで、2台のソーラーカーがフル回転で作動していました。日立一高付属中・科学部の生徒がアシスタントスタッフとして、試乗する子どもたちに丁寧に乗り方を説明するなど、和やかな雰囲気が会場に広がっていました。



マーブルホールでは、「自分の声や楽器の音の形を見てみよう」「ふしぎなコップモータをつくろう」という2つのブースを出展しました。ブース担当の日立理科クラブ員たちは、次々に訪れる子どもたちに、作品作りに熱心に指導していました。ストローを使っての音の出る「ストローンボン」作りや、プラスチックコップを回転させるコップモータ作りでは、どうして音が出るのか、プラスチックコップがなぜ回るのかなど、工作の仕組みや工作のコツなどを分かりやすく説明していました。出来上がった作品を大切に持ち帰る子どもたちの満足そうな笑顔がたくさん見られました。



それ以外では、特別講演会として「ニュートリノで解明する宇宙の究極の謎」という演題で、高エネルギー加速器研究機構・素粒子原子核研究所准教授・多田将先生の講演がありました。科学館9階のサイエンススタジオの会場に70名を超える参加者が、熱心に耳を傾けていて、講演の後もたくさんの質問がでていました。内容的なこともあり、大人の方が多く参加していました。

「科学の祭典」参加した子どもたちはもちろん、出展者の皆さんも「科学の種」を蒔くことに喜びと楽しみを感じながら、1日を過ごしたのではないのでしょうか。

文責 日立理科クラブ 特別会員 岩波 英一
日立理科クラブ事務所 TEL/FAX 0294-24-3104